



友 愛

全国学力・学習状況調査報告編

鴨池小学校
学校だより
令和4年10月発行

令和4年5月に行われました「令和4年度全国学力・学習状況調査(対象6年)」の結果がまとまりましたので概要をお知らせします。

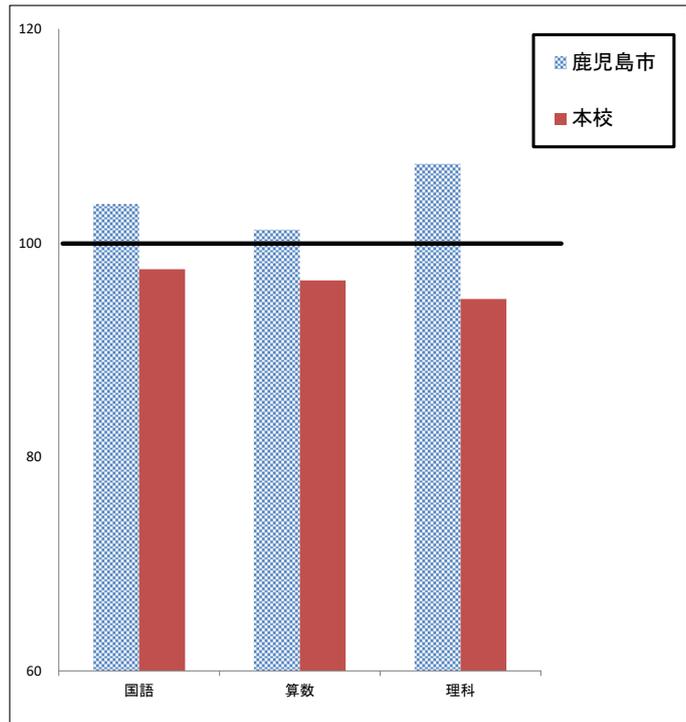
この調査は、5年生までの学習内容をもとに、定着度の把握や指導法改善をねらいにしています。児童質問紙は、子どもたちの生活や学習の様子、考え方について調査しています。これらの結果をもとに、今後さらに全学年の子どもたちの学力向上のために学校と家庭が一体となった取組を推進していきたいと思っておりますので、御理解・御協力のほどよろしくお願いいたします。

＜教科に関する結果概要＞

本校の調査結果を平均正答率で表すと、右の棒グラフのとおりです。

すべての教科で全国の平均を下回っています。また、市の平均も下回る結果となっています。

【全国の平均正答率を100としたときの数値】



＜国語＞

長文読解の、「物語から伝わってくる」という条件に沿って考えを書くことに課題がある。また、話し合い活動について、自分の立場を明確にして、友達の意見を聞いて質問するなどの方法が身に付いていない。漢字についても正答率の低い漢字があった。

そこで、物語から伝わってくること(主題)については、単元ごとに自分のことばで書けるように、低学年から継続して書く時間の確保と書き方について指導を行っていく。話し合い活動では、まず、理由や根拠を加えて自分の考えをもたせ、ノートに記入させる。聞くときは、友達の意見のよさをメモするなどして進めていく話し合いを経験させる。漢字については、毎日の漢字練習や日記を活用して身に付けさせる。

＜算数＞

かけ算の筆算など基本的な問題の正答率が低い。図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察することにも課題がある。

概数や割合など児童にとって難しい単元の内容の理解が不十分であった。

そこで、授業では計算を解く学習とともに、理由や考えを自分の言葉や例にならって書き、友達に伝え合う学習を進めていく。図形については、辺の数や辺の長さ、角の大きさなど着目して、図形の意味や性質を基に、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断することや作図の仕方を筋道立てて説明をするなどを授業に取り入れていく。

＜理科＞

問題の資料から結果やまとめを導き出し、条件に合った記述をすることに課題がある。問われていることに対しての、資料を読む力や資料の共通点と相違点を把握するところにも課題がある。

そこで、学習課題に対する予想や仮説を基に、解決の方法を発想させし、観察、実験などを行った結果を事実として分析して、解釈したことを、結論の根拠として表現できるようにすることを意識した授業を行っていく。しっかり問題を読んだり、資料から答えを導き出せる部分を見つけたりする習慣を授業での声かけや個別指導を行う。また、児童同士が話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気づきを基に、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだしていくような場面を設定する。

＜全体的に＞

児童質問紙の結果から、「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」のしている割合が低くなっていることから、生活リズムが整っていない。

そこで、規則正しい生活を身に付けさせることが大切になる。そのために、家庭と連携して、「早寝・早起き」の習慣化を図り、生活リズムを整えさせていく。